

就任挨拶



**コッククロフト・ウォルトン型
加速器の前で**

大阪市立科学館 館長 斎藤 吉彦

このたび、加藤賢一前館長の後任として、大阪市立科学館の館長に就任しました。どうぞよろしく申し上げます。

科学館は1989年10月に四ツ橋にあった電気科学館の後継施設としてオープンしました。私はそれから2年目の1991年に新米の学芸員として着任し、早速、展示改装という大事業に携わることができました。右も左もわからない学芸員でしたので、加藤前館長(当時は係長)や展示委員会の先生方から基本中の基本、「科学館は本物・実物・生の現象で科学の普及」という薫陶を受けたのです。この時に、阪大から世界に誇る資料の寄贈という申し入れがあり、無我夢中で飛び回りました。展示場4階の日本初の原子核を破壊する装置「コッククロフト・ウォルトン型加速器」です。最初の成果で、とても幸運なことでした。その後、日々の開館業務はもちろんのこと、2回の展示改装事業やプラネタリウムの更新など、この精神で職員が一丸となって取り組んできました。資料の寄贈やボランティアなど多くの方々の支援もあって、今日では、科学館は本物・実物・生の現象が溢れ、子どもから大人まで老若男女を問わず楽しめる空間に成長しました。

今年からは「科学を楽しむ文化の振興」を使命として科学館はさらなる発展を目指します。「科学を楽しむ」だけではありません。科学館で体験したことをついつい家族や友人に熱く語ってしまう、そのような感動を味わっていただくのです。そして、家庭や学校・職場で科学の話題に花が咲く、まさに科学を楽しむ文化です。科学館は文化の発信源になるのです。

この使命を全うするために、学芸員は今以上に精進しなければなりませんし、多くの方々の応援が必要です。既に、市民の方々や民間企業からの展示資料の寄贈、大学や研究機関との連携事業、ボランティアによる展示案内やサイエンスショーに科学教室そして観望会の指導、中高大生による展示解説、プラネタリウムの共同制作など、多くの方々と学芸員との共同で科学館は元気いっぱいです。この様な活動をさらに発展させることで、科学を楽しむ文化の振興を目指します。

まずは、科学館へ来て、本物・実物・生の現象に触れてください。学芸員はもちろんのこと、多くの方々の応援でみなさんを科学の感動へと誘います。ご期待ください。そして、科学館事業への参画もどうぞよろしく申し上げます。